

平成28年度 第3回 匠瑛市食育推進協議会 会議録

会議の概要

開催日時	平成29年2月15日(水) 13時30分から14時30分まで		
開催場所	匠瑛市民ふれあいセンター 1階 第1会議室		
出席者の氏名	委員	南波隆(匠瑛市校長会 給食担当) 鎌形晴美(匠瑛市保健推進委員会 副会長) 柴崎美佐子(ちばみどり農業協同組合 営農センターそうさ調査役) 越川淑美(匠瑛市PTA連絡協議会 会長)	大木万智子(八日市場ふるさと交流協会 会員) 川手一宏(旭匠瑛医師会 理事) 小林淑子(匠瑛市農業振興会朝市組合 副組合長) 野村徳明(海匠農業事務所 企画振興課長) 作佐部勝美(産業振興課長)
	事務局	大川 洋(産業振興課 副主幹)	木内将市郎(産業振興課 副主査)
欠席委員	大木すみ江(匠瑛市商工会女性部 部長) 高橋康二(健康管理課長)	鈴木良則(匠瑛市商工会青年部 部長)	
議題	(1) 第2次匠瑛市食育推進計画(案)について (2) その他		
配付資料	会議次第 資料 第2次匠瑛市食育推進計画(素案)		

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局	第3回 匠瑛市食育推進協議会 開会の挨拶
会長	挨拶
事務局	資料確認 会議の出席状況の報告、会の成立の報告
会長	挨拶 議題(1) 第2次匠瑛市食育推進計画(案)について事務局の説明を求める。
事務局	資料 第2次匠瑛市食育推進計画(素案) を基に説明 なお、平成29年1月10日から2月8日までパブリックコメントを実施したが、意見の提出は無かった。
会長	意見等あるか。
A委員	パブリックコメントも終了したとのことだが、今後のスケジュールについて、いま一度確認しておきたい。

発言者	発言要旨
事務局	<p>本日の会議をもって、計画内容の審議は終了する。その後は市で決裁を行い、計画は成立となる。</p> <p>なお、計画書については今後印刷製本を行い、協議会の各委員や、学校や農協など食育に関連する機関や団体に配布することになる。</p>
A委員	<p>計画書は、市民には配布されないのか。</p>
事務局	<p>広報でも計画成立を周知するとともに、市のホームページに掲載する。市民の方が利用しやすいよう配慮したい。</p>
会長	<p>私からも確認したい。</p> <p>今後の食育推進体制についてだが、この協議会は関係機関の連絡調整を産業振興課で担当し、進捗状況等の評価を行うということによいか。</p>
事務局	<p>計画の進捗状況の確認はもちろんだが、そもそも食育という軸が無ければ関係者が一堂に会する機会は少ないと思うので、今後も協議会を活用して情報共有や意見交換を行いたい。</p>
会長	<p>ここにお集まりいただいている委員の方々の中には、今後それぞれ場で直接食育に携わる方や、他機関と連携して食育事業を進めていただく立場の方もいると思う。よろしくお願ひしたい。</p> <p>他にどうか。B委員いかがか。</p>
B委員	<p>協議会では計画を作るだけでなく、来年度以降も波及的に、という話があったので、いくつか申し上げる。</p> <p>食育推進計画については非常によく出来ていると思うし、実施したアンケートも母数が多く標準的な所を拾えた素晴らしい内容になっていると思うが、こうしたデータは協議会だけで持っているのではなく、ぜひ教育現場に反映してほしい。</p> <p>例えば12ページの朝食の欠食を例にとると、医者として興味があるのは、毎日食べる子どもより、むしろ「食べていない」あるいは「未回答」の部分だ。データに表れない個々のお子さんの問題点を学校の先生には検討していただき、協議会で発表、情報共有することができれば、食育が一步進むと思う。</p> <p>教育委員会に限らず、こうしたデータは協議会からどんどん出していったって、例えば「農協ではどう評価しているか」「生産者はどのように考えているか」など深い所まで追いかけていくと、協議会が意義深いものとなると思う。</p> <p>また、計画の22ページに「食品ロス」という言葉がある。字面を見ればイメージはわかるが、子どもや高齢者が見聞きして、響くものなのだろうか。全市民に行き渡るような言葉を検討してほしい。</p>

発言者	発言要旨
<p>会長</p>	<p>いま、B委員からは2つの意見があった。</p> <p>1つは貴重なデータを共有し、現場に反映し実践に結び付けることについて。データの活用については以前の会議でも申し上げたが、例えば朝食に値しない内容でも「食べた」と回答してしまっているような場合もあると思う。そうした状況の改善に、手持ちのデータを活かしていくことは重要であると思う。</p> <p>もう1つは、食品ロスについて、言葉の選択や、わかりやすい言葉への置き換え等の配慮が必要ではないかということであった。</p> <p>以上のことについて、事務局いかがか。</p>
<p>事務局</p>	<p>1つ目については、アンケートを単なる傾向把握としてだけでなく、中身をより活用してはどうかという意見だと思う。</p> <p>例えば、数字で見ると中学2年生の朝食の欠食は3.9%にとどまっているが、望ましい状況ではないと思う。まず欠食が問題であるということに関係者だけでなく広く認識し、対策を講じていく必要がある。</p> <p>なお、計画書には掲載していないが、今回実施したアンケートでは別の設問で欠食理由についても質問しており、回答を見ると「食欲がないから」「特に困らないから」「食べない方が体調がいいから」など、朝ご飯が軽視されている傾向が見えてきた。こうしたデータは、食をめぐる状況の改善や食育の推進に活かしていきたい。</p> <p>2つ目について、「食品ロス」はここ1年でクローズアップされるようになった新しい用語であるので、例や解説を示しながら、計画に位置付けるよう配慮したい。</p>
<p>B委員</p>	<p>協議会の方から、例えば教育委員会に対して「こういうデータがあるが、どう考えるか」など積極的に投げかけてみてはどうか。</p> <p>教育委員会だけでなく、農協や医師会などに対し「アンケートでこのような結果が出たが、これについてどう解釈するか、協議会で発表してもらえないか」など、各団体内部での協議検討を促したり、他団体と共有する取組みがあるとよい。</p> <p>また、先ほどのA委員の意見とも関連するが、計画書は作って関係部署に配ればそれでよいのか。せつかくこのような良い計画があっても、申し訳ないが自分はこれまで食育推進計画の存在を知らなかった。医者の方が知らないということは、多くの関係者や市民は知らないということだと思う。有効なPRの方法をぜひ行政で検討してほしい。そうしたことも協議会の重要な役割であると考えてるし、計画は教育委員会や農協を通じて周知配布することもできると思う。</p>
<p>会長</p>	<p>多岐にわたる関係機関や組織への能動的な働きかけや、食育の普及に向けたPRに取り組むべきではないかという意見だと思う。</p>

発言者	発言要旨
事務局	<p>ご意見のとおり、協議会を単なる計画策定だけの会議とするのではなく、むしろイニシアチブを発揮して内外に提案していくことが必要だと考える。</p> <p>また、計画も作って終わりではなく、どのように活用していくかを検討していきたい。</p>
会長	アンケートは、今後もその都度実施するのか。
事務局	<p>計画策定の度を実施することになるので、次回は第3次計画を策定する5年後になろうかと思う。また、産業振興課の他にも学校や給食センターで食育に関連するアンケートを実施していると伺っている。そうした情報の共有と活用も検討していきたい。</p>
会長	保護者の立場からC委員、いかがか。
C委員	私も食品ロスという言葉に興味を持った。23 ページの施策内容に「環境を意識した食生活の推進」という項目があるが、具体的にどのようなことを取組まれているのか。
事務局	<p>「ゴミの問題」という広い意味では、以前から削減等に取り組まれてきたと思うが、先ほど申し上げた通り、食べられるのに捨てられる食品の問題、食品ロス問題は、ここ最近になって特に注目され始めたところだ。</p> <p>身近にできる食品ロス対策として、先日も環境省が中心となって「30・10運動」を推進するということが報道された。「30・10運動」とは、宴会など外食時の食べ残しを減らそうという運動で、初めの30分と終わりの10分は自席で食事を楽しみ、食べ残さないことを心がける取り組みだ。県内でも佐倉市などが率先して取り組むことを宣言している。</p> <p>匝瑳市においては、「食品ロス」という言葉を用いて施策に位置付けるのは本計画が初めてだが、今後は環境生活課など関係課と連携して食品ロス対策を考えていきたい。</p>
委員	<p>その他、いかがか。</p> <p>無いようであれば、先ほどの食品ロスという言葉については読み手への配慮を踏まえるとしたうえで、この案のとおり承認してよろしいか。</p>
	全員賛成
委員	<p>承認いただいたということで、よろしくお願ひしたい。</p> <p>続いて議題（2）その他 事務局の説明を求める。</p>

発言者	発言要旨
事務局	<p>本日はせっかくお集まりいただいたので、食育に関する情報提供を行いたい。</p> <p>①千葉県が実施した健康調査の結果、県民は塩分過多で野菜不足という傾向が明らかになった。先日の専門部会でもこの話をしたところ、特に海匝ブロックは原因が不明だが塩分摂取が多いとのことであった。千葉県自体は減塩運動に積極的に取り組んでいるが、実態としてはまだまだ対策が求められている。</p> <p>なお、塩分過多と野菜不足については、現在策定中の「そうさ健康プラン」でも項目とされている。食べることと健康とは切っても切れない関係であり、両計画を活用して食育と健康づくりを一体的に推進したい。</p> <p>②千葉県が先日「房総 海の幸」をテーマとして、文化庁に日本遺産申請を行った。日本遺産とは、文化資源をその背景にある歴史と組み合わせたストーリーとして認定する制度だ。海の幸がテーマと言うことで、匝瑳市を含めて千葉県海沿いのエリアの漁業、食文化、歴史が広く対象となっている。</p> <p>食育的な観点からすると「食文化の承継」は重点項目とされているため、こうした動きを注視しながら、新たな連携や活用を検討していきたい。</p> <p>③旭市の子育て支援センター「ハニカム」では、公立保育所の給食を紹介・掲示している。各保育所の紹介を兼ねたものであろうが、保護者の食に対する関心は高い。参考例として共有する。</p> <p>④先日、産業振興課で「親子味噌つき体験」を実施した。</p> <p>宮本地区で農業を営む「みやもと山」の齋藤さんにご協力いただき、7組15人の親子が味噌づくりを楽しみながら学んだ。</p> <p>今回の味噌つき体験は、各小学校を通じて全児童にチラシを配布した。広報等でも周知しているが、チラシを配布すると1週間経たないうちに定員に達するほど人気があり、保護者、子どもの関心の高さが伺える。</p>
会長	今の報告に対し、意見等はあるか。
A委員	味噌つき体験の他に、市では食育推進計画に基づいてどのような事業を実施しているか。各委員との情報共有を兼ねて紹介してほしい。
事務局	産業振興課の事業としては、冬は味噌つき体験を行ったが、夏休みの7月～8月には「大豆畑のお手伝い」や「昔ながらの塩づくり」など体験型事業を実施している。この他、学校や健康管理課でも農業体験や料理体験などの事業を展開している。
会長	その他はどうか。

発言者	発言要旨
C委員	<p>今の報告で、体験事業などはすぐに定員に達するほど人気があるということだったが、回数を増やすことはできないか。</p> <p>実は8月の塩づくりの際に興味があり申し込んだが、定員のため残念ながら参加できなかった経験がある。また、今回の味噌づくりも7組15人という参加者数は、全児童数と比較すると少ないように見える。回数や人数を増やすことをご検討いただきたい。</p>
事務局	<p>定員はバスや受け入れ先のキャパシティの問題もあり、1回あたりの定員を20人～30人で設定している。</p> <p>今後は他の生産者への協力も視野に入れ、回数を増やすなどより多くの方に参加していただけるように努めたい。</p>
会長	<p>もっと回数を増やしてほしいということで、実施している農業体験が評価をいただいたということだと思う。</p> <p>他にあるか。</p>
B委員	<p>先ほどの食品ロスについて、医者立場から申し上げますと、むしろ食べ残しをしなければならないお子さんも多いのだ、という視点を忘れないで頂きたい。</p> <p>例えば、高度肥満のお子さんには「今日は残してよかったね」といった指導もあり得るだろうし、糖尿病で注射をしているようなお子さんもいらっしゃる。そういうお子さんに対して、一律に食べ残しはダメだという指導はよくないと思う。</p> <p>食については非常に個人差が大きい。例えば、先日給食センターでも申し上げたが、ある子どもが「お腹が痛い」と言うので、どうしたのかと尋ねたところ「実は給食が…」と訴えた。給食が重荷になっている子どもいる。</p> <p>もちろん、特別な人だけに目を向けるわけではないが、画一的に考えず、そうした個別的な事情も念頭に置いたうえで、食べ残しを減らすにはどうしたらいいのかを考えていくとよいと思う。</p>
会長	<p>単に食べ残すことが全てダメと言うことではなく、その人、その人の適量を残さないということが重要だと思う。施策を展開する際に反映させてほしい視点だ。</p> <p>私からも伺いたい。日本遺産申請の件だが、これは匝瑳市を含む海沿いの多数の市町村が対象になっているということか。</p>
事務局	<p>その通りである。イメージとしては、ぐるっと千葉県を囲む感じである。</p>
会長	<p>その他どうか。(なし)</p> <p>無いようであれば、これで議案審議はすべて終了となる。慎重審議にご協力いただき感謝申し上げます。</p>

発言者	発言要旨
事務局	議長お疲れ様でした。また、慎重審議ありがとうございました。 本日は以上です。ありがとうございました。